| クラス | | 番号 | | 氏名 | |
|---|---|---|---|---|---|

## 天声人語

ひとりの女性のはなし。地球化学者、猿橋勝子(かつこ)。すぐれた女性科学者をたたえる猿橋賞の創設者だ。2007年に87歳で亡くなった。きょうはちょうど彼女が生まれて100年にあたる▼雨はどうして降るのだろう。窓のしずくを眺めながら、そんな疑問を抱く子どもだったそうだ。高等女学校を出てもさらに進学する女性が限られた時代。帝国女子理学専門学校で物理を学び、気象研究所に勤めた▼その名を世に知らしめたのは1954年、ビキニ環礁での米国の水爆実験による第五福竜丸事件。猿橋は海水に「死の灰」がどれほど含まれるかを調べたが、これを認めない科学者がいた。「女だということでなめられた」。ひとり渡米して測定精度を証明してみせた▼女性は博士号をとっても「添え物」にされている。そう訴えて差別に憤然と異をとなえた。「反発だけでなく、科学者として役に立ちたいとの強い思いからだったのでは」と猿橋賞の受賞者で、日本地震学会の初の女性会長を務めた石田瑞穂さん(76)は話す▼そんな女性科学者に厳しい時代はすでに過去のものになったのか。残念ながら、医学部の入試差別などを猿橋が聞いたら「きっと怒り狂っていると思いますよ」と石田さん▼ノーベル賞を2度受賞したマリー・キュリーは科学者を「おとぎの国への旅人」と例えた。きょうもどこかで、未来の旅人たちが「雨って何だろう」といった疑問で頭をいっぱいにしているのを想像する。彼らの旅に男女の壁はいらない。

2020・3・22

## 天声人語

記入日　　年　　月　　日　　曜日

意匠登録(第1443331号)